第２学年　家庭科学習指導案

豊中市立第二中学校

Ｔ１　指導担当教諭

Ｔ２　栄養教諭

１．日時　　　平成３０年１０月２４日（水）第３限目

２．場所　　　本館３階調理室

３．学年・組　　　２年

４．単元名　　　自分や家族・地域を守る日頃からの備え「食生活の備え」

　　　　　　　　　（東京書籍　p.4・140・141）

５．単元目標

　　○災害に対して、自分や家族・地域のためにどのような備えが必要かを知る。

　　○災害による被害や不便な生活を最小限に抑えるための技術を身につける。

　（食育の視点）

　　災害時の食生活の備えについて、何をどれくらい準備しておくかを理解し、家庭で実行できる

ようにする。（食事の重要性）

　　災害時の食事について、栄養のとり方や調理方法についての知識を身につける。（健康の保持増進）

６．生徒観

　　　※個人情報のため削除

７．教材観

　　　豊中市から配布されているハザードマップや防災食の現物を見せることによって、より具体的に

理解できるよう工夫する。

　　　簡単な調理実習を、少ない水、保存に向く食品、限られた調理器具で行い、実践のヒントとなる

ようにする。

８．指導観

　　　２年生は食生活と栄養の授業の中で、６つの食品群について何をどれくらい食べればよいかという学習を終えている。

　　　今年６月１８日大阪北部地震で豊中市も震度５強を記録し、臨時休校となった。本校も避難所を開設し、十数名が体育館で１日を過ごした。校舎もひび割れやエレベーターの停止があり、ブロック塀は高いため、取り換え工事中である。また、２日後には西日本豪雨で大雨警報が発令され、６月２０日は臨時休校、台風７号により７月５日、６日も臨時休校となった。さらに９月４日には、台風２１号により、臨時休校となり、周辺で停電、断水、屋根が飛ぶ、信号機が消えるなどの被害が出、本校でも木が倒れたり、折れた木の枝が散乱していた。このような災害に備えるために、中学生でも防災についての知識を身につけ、自分や家族の身を守れるようにしておきたい。

９．単元の評価基準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 生活や技術への関心・意欲・態度 | 生活を工夫し、創造する能力 | 生活の技術 | 生活や技術についての知識・理解 |
| 災害時の食生活について関心を持って学習活動に取り組み、備えをしようとしている。 | 災害時の献立と食品の選び方について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。 | 災害時の食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。 | 災害時の献立と食品の選び方について理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。 |

１０．本時のねらい

　　　災害時の食生活の備えとして、３日分くらいの飲料水と食料を準備しておきたいが、その量と

内容を知り、簡単な調理の方法を身につけたい。

１１．準備物

　　　豊中市浸水ハザードマップ、保存食、水のペットボトル、スパゲティ、トマトジュース缶詰、

ツナ缶詰、コーン缶詰、黒こしょう、しょうゆ、フライパン、菜箸、

１２．本時の展開

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動 | 指導上の留意点 | | 評価の観点 |
| Ｔ１ | Ｔ２ |
| 導入５  分 | 本日のめあてを確認する  １年生の時の災害についての学習をふりかえる  災害時の食生活の体験を知る | １年生の時に学習した災害に対する備えについて復習する | ハザードマップを見せ、災害時の食生活について、最近の事例について伝える | 本時の目標が理解できているか食生活以外の防災の備えを理解しているか（関心・意欲・態度） |
| 展開  30  分 | 災害時の食生活について考えよう  保存食を使った調理実習、試食 | 災害時の「トマトパスタ」の調理実習の作業について説明する | 保存食を使った「トマトパスタ」の工夫した点に気付かせる  T1とともに調理実習の指導をする | 災害時の食生活に必要な栄養や食事のとり方について理解できたか（知識・理解）（生活の技術） |
| まとめ  15  分 | 家庭で備えたい３日分の飲料水と食品の量と内容を知る  班ごとに、災害時の食生活について、気付いたことを発表する | 災害時の食生活についての注意点を確認する | 保存食の現物を見せ、３日分の飲料水と食品の量と内容を示す。  災害の状況に応じて、食生活も臨機応変に工夫しなければならないことを知らせる | 自分の家の防災について課題を見つけ、改善することができるか(工夫、創造) |